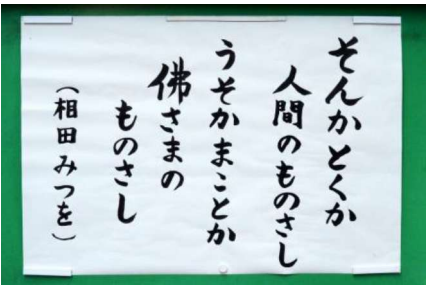
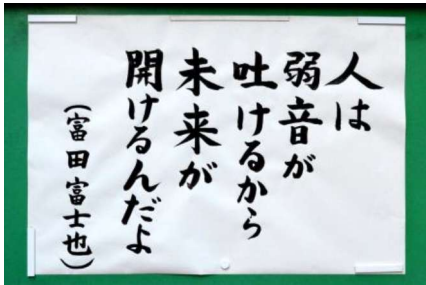


月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

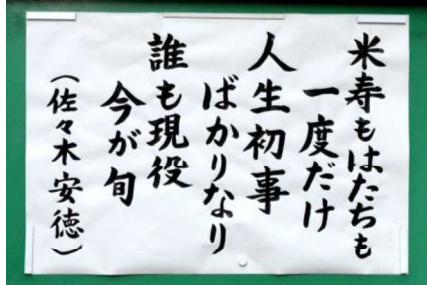
お寺の入り口の伝道掲示板に、その時々を掲げています。



2025年11月



2025年12月



2026年1月

外国人観光客を連れて「人力車」が安楽寺にやって来た！



人力車といえば浅草などが有名ですが、港区でも一昨年10月からサービスが始まりました。増上寺を出発して東京タワーを望む路地や芝公園周辺を回る定番コースがあって、乗用車より高い視点からの眺めをゆっくり楽しむことができます。

今回、ひょうなご縁から、日本を観光中だったフランス人の親子が安楽寺に立ち寄ってくれました。

●東京みなと人力車（関心ある方はどうぞ！）

<https://visit-minato-city.tokyo/ja-jp/places/3054>



《番外編：東京タワーのライトアップ三景》



10月28日



11月17日



12月1日

「定例法話会」の今後の予定（毎月第3日曜日 午後2時～）

伝道掲示板の言葉をもとにお話させていただきます。いつでもご参加ください。

1月18日(日) 2月15日(日) 3月15日(日)

安楽寺だより 第65号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話:03-3451-1509 FAX:03-3798-2238

発行者：藤澤 克己（安楽寺住職） ホームページ <https://anraku-ji.org/>



（安楽寺だよりは1月・4月・7月・10月に発行します）

ひと呼吸おいて本物を大切に

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

私たちは日々、多くのニュースに触れています。溢れる情報の中には事実と異なるニセ情報が混ざっていることもありますし、言葉巧みに惑わす特殊詐欺も依然として多発しています。

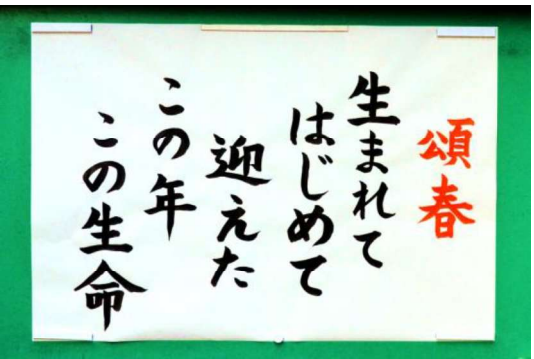
情報の波に振り回されることなく、嘘や噂に翻弄されて被害に遭ったり、意図せず誰かを傷つけたりすることがないように、本物を大切に一年にしたいものです。



（1月1日 午前7時頃 新浜崎橋より）

『歎異抄』には親鸞聖人のお言葉として
善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり
とあります。何が真実で何が偽りか見極めるのは簡単ではないと、親鸞聖人が凡夫としての深い自覚から述べられたお言葉です。

「自分は決して騙されない」という思いは、時に過信となって過ちを生むかもしれません。溢れる情報に対し、まずはふと立ち止まって「一呼吸」置いてみませんか。穏やかな生活のためにぜひ心掛けたいと思います。



（お正月の掲示板）

▼冬の「安楽寺だより」をお届けします▼かつてお正月と言えは街中に独特の静けさがありました▽今は働く人々のおかげで元日から便利で活気もあります。昔を懐かしく思うこともあります▼今年の世相を表す「今年の漢字」に「熊」が選ばれました▽各地での出没と人的被害が相次いだからでしょう▽駆除は現実的な対応として不可避ですが共生の難しさを突きつけられる重い現実です▼この春4月から自転車の交通ルールが厳格化されます▽逆走（右側走行）や一時停止無視といった違反行為が厳しく取り締まられます▽お互いの安全を守り社会的責任を果たすため改めて交通ルールを守りましょう▼本年もよろしくお祈りします

《あれこれ抄》

ほう おん こう

報 恩 講 を お 勤 め し ま し た

11 月 10 日、安楽寺報恩講をお勤めしました。浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご命日を縁とする法要で安楽寺の大切な行事の 1 つです。

本堂には多くの方がお参りに足を運んでくださり、近隣の仲間のお寺さんにも出仕を賜り、賑々しく正信偈しょうしんげを読誦しました。

読経に続き南條良瑛氏（中組法重寺）よりご法話（お取次ぎ）をいただきました。

親鸞聖人ご自身は師である法然上人との出遇いによりお念仏の受け止め方がガラリと変わられたこと。南無阿弥陀仏のお念仏は、私たちが口に称える言葉でありながら、実は苦悩する私たちを救わずにはおれないという仏さまの願いそのものであったこと——聖人が生涯をかけて伝えようとしたこの大切な み教え を大変わかりやすくお話しくださいました。



七條袈裟をつけた住職と芝組法中 4 人の出仕により賑々しくお勤めしました



南條氏のお父さまには、かつて永代経法要(5 月)のお取次ぎでご出講いただきました。親子 2 代にわたってのご縁に感謝です。



法要に先立ち、教区会議員・監査役の重責を芝組代表として担っていただいている総代の河村和美さんに、芝組の組長（長徳寺住職）から感謝の品が手渡されました。

総追悼法要のご報告

去る 12 月 20 日(土)に、昨年一年間に亡くなった方々の「安楽寺総追悼法要」を合同で執り行いました。お預かりしたメッセージをお供えし、故人のお名前を尊前にご奉告してからお勤めしました。読経後、その後の出来事や気持ちの変遷を語っていただく時間を持ちました。



年回法要(法事)のご案内

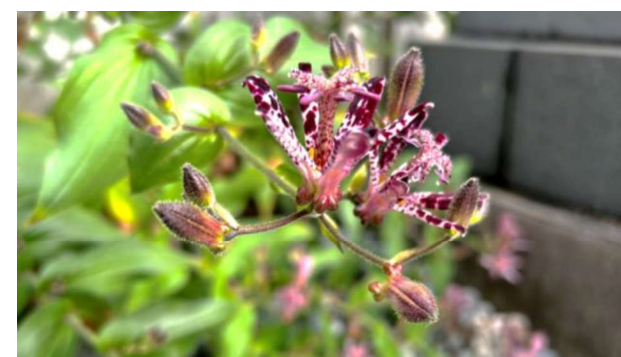
年回法要は亡き人のご命日をご縁としてお勤めする「仏法行事」です。故人を偲び、生きている私たちが自らのいのちの行方に思いを馳せる尊い仏縁です。

みなさまには 2 カ月前を目安にお知らせしています。本年が年回忌に当たる方は法要の日程をご検討いただきますように。

2026(令和 8)年 年回表

五十回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	年回忌
昭和 52 年	平成 2 年	平成 6 年	平成 12 年	平成 16 年	平成 22 年	平成 26 年	令和 2 年	令和 6 年	令和 7 年	七くなられた年

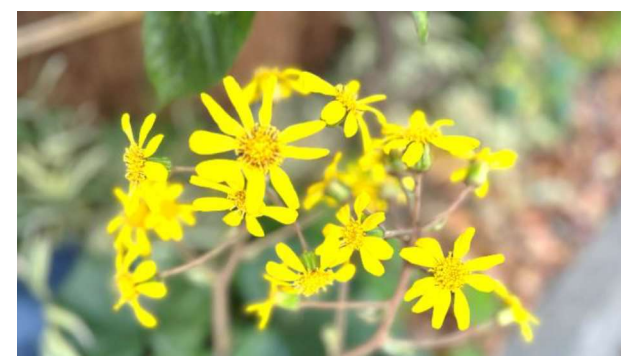
《季節の思い出》



墓地脇に群生するホトトギス（10 月）



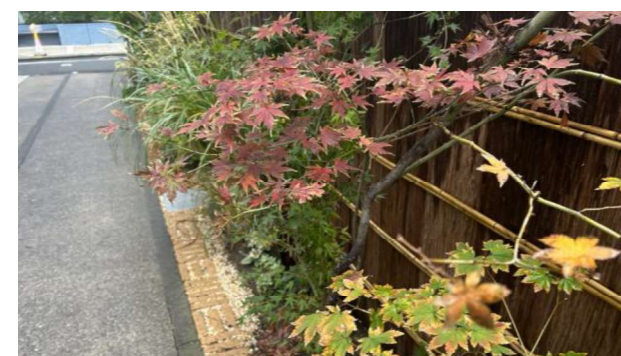
墓地から参道脇に移植したススキ（11 月）



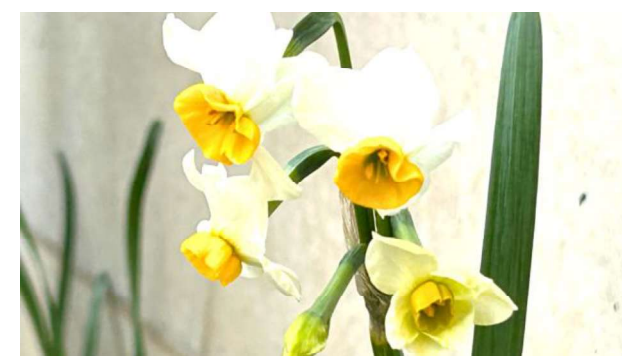
ツワブキ（11 月）



シュウメイギク（11 月）



参道脇の紅葉（12 月）



墓地脇に咲くスイセン（1 月）